

# 産婦人科



## 1. 産婦人科の紹介

産科婦人科研修によって、産科ではヒトの妊孕生理とその病態、また、分娩の過程に深く関わることが出来ます。婦人科手術では、系統化された術式を通じて基本手技を習得し、骨盤底部に及ぶ解剖を学ぶことができます。不妊治療分野に関しては連携施設での研修によって先端の生殖補助医療によるヒトの発生から誕生という神秘に触れることができます。女性医学分野では女性の一生を通じた内分泌学的な治療を学ぶことができます。この様

に、産科婦人科学は医学の中でも極めて興味深い領域を含んでいます。生命の誕生からその終末期まで医学のあらゆる分野に関わりも持つ産婦人科を選択することは医師となるための過程において重要な意味を持ちます。当科における高度な医療の経験は有意義な卒後研修となることでしょう。

## 2. プログラムの目的と特徴

産科婦人科の研修ガイドラインに従い、産科・婦人科・生殖内分泌・女性医学の各分野において、臨床に必要な基本的知識、産科婦人科における主要疾患の診断ならびに治療・技術を習得できます。産科では、研修早期より帝王切開術の執刀を経験でき、女性医学に関しては、臓器脱の手術の助手としての参加や、外来での診療見学

を行うことができます。婦人科では腹腔鏡手術の助手や執刀医としての経験を積むことも可能です。手術研修には全国でも数少ないCadaver Training systemを導入しており、腹腔鏡下子宮全摘術や骨盤リンパ節郭清のトレーニングが可能です。

## 3. 経験目標

産科疾患・婦人科疾患・生殖内分泌疾患・女性医学関連疾患の診断・治療に関する経験と知識を習得します。

- 超音波検査で、胎児の推定体重・血流測定などの産科的評価法に関する手技を習得する。
- 分娩の流れについて理解し、指導医の指導の下、内診によって分娩進行を評価し、分娩介助・帝王切開術の手技を含めた分娩管理法を習得する。(手術の執刀は研修開始2ヶ月から)
- 婦人科疾患では、超音波検査・CT・MRIなどの読影を行い、コルポスコピーや内診による腫瘍病変の評価方法を習得する。
- 婦人科手術手技について理解し、基本手技や周術期管理を習得する。
- 腹腔鏡手術において、カメラ操作や基本手技を習得する。
- 人工受精・体外受精などの手順や基本手技を理解する。
- 受精卵を観察し胚移植の手技を理解する。

## 4. 指導医と指導体制

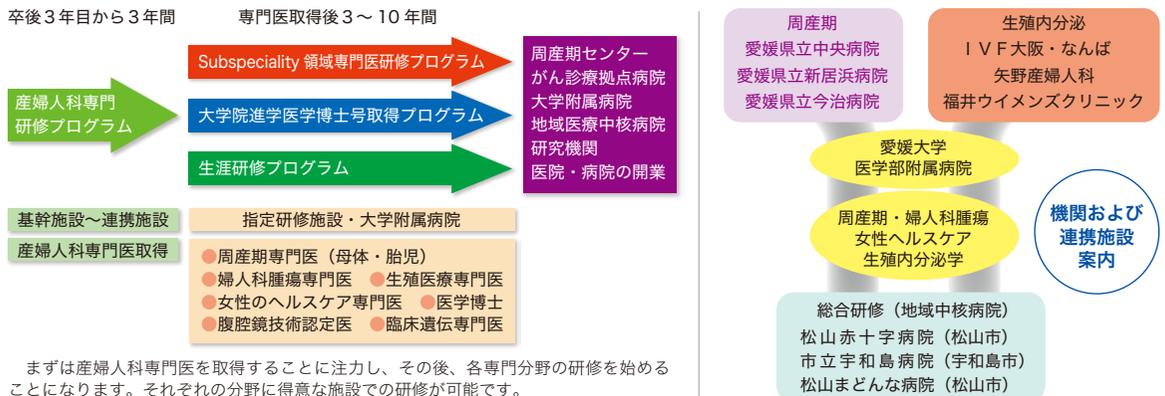
主任教授	杉山 隆	周産期、内分泌・代謝学、東洋医学
教授	松原 圭一	周産期、臨床遺伝、内視鏡、婦人科腫瘍、女性ヘルスケア
准教授(科長)	松元 隆	婦人科腫瘍
講師	松原 裕子	婦人科腫瘍、臨床遺伝、周産期
講師(医局長)	宇佐美知香	婦人科腫瘍、内視鏡
助教	内倉 友香	周産期、臨床遺伝、内視鏡

助教	森本 明美	婦人科腫瘍
助教(病棟医長)	安岡 稔晃	内視鏡、婦人科腫瘍、臨床遺伝、生殖医療
助教(外来医長)	村上 祥子	
医員	横山 真紀	
医員	宮上 眸	

## 5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金	
AM	手術・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	手術・病棟業務	手術・病棟業務	*臨床カンファレンス： 月～金曜日AM 周産期カンファレンス： 毎月第4水曜日 病理カンファレンス： 毎月第3水曜日
PM	腫瘍カンファレンス	外来・病棟業務	手術カンファレンス			

## 6. 新専門研修プログラム



まずは産婦人科専門医を取得することに注力し、その後、各専門分野の研修を始めることとなります。それぞれの分野に得意な施設での研修が可能です。

基幹施設である愛媛大学医学部附属病院を中心に、愛媛県立中央病院・愛媛県立新居浜病院・愛媛県立今治病院・市立宇和島病院・I V F大阪・I V F難波・福井ウイメンズクリニック・矢野産婦人科・松山赤十字病院などの連携施設とともに種々のコースを設定しており、研

修医の希望に添った形で研修をすることが可能です。(周産期重点コース・婦人科腫瘍重点コース・生殖内分泌重点コース・地域医療重点コース・腹腔鏡重点コース・大学院進学コースなど)

## 7. 専門研修修了後について

初期臨床研修終了後、大学病院あるいは連携病院での後期臨床研修において、まず、日本産科婦人科学会専門医の取得を目指します。その後、それぞれ独自性を持つ

た連携施設や大学において各種専門医の資格取得に向けた臨床経験を積むこととなります。また、研究に興味があれば大学院に進学することができます。

## 8. 専門研修の問い合わせ先

担当：宇佐美知香 (産科婦人科学講座・医局長)

TEL：089-960-5379 E-mail：usami.tomoka.cp@ehime-u.ac.jp

